

令和3年度（2021）

学校関係者評価報告書

学校法人穴吹学園

穴吹ビジネス専門学校

学校関係者評価報告書

学校法人穴吹学園 穴吹ビジネス専門学校 学校関係者評価委員会は、令和3年度学校自己評価に基づく学校関係者評価を実施いたしましたので、ご報告いたします。

令和4年3月18日
学校法人穴吹学園 穴吹ビジネス専門学校
学校関係者評価委員会

1. 学校関係者評価の目的

より実践的な職業教育の質を確保するため、教育活動の観察や意見交換等を通じて穴吹動物専門学校の自己評価の結果を評価することを目的とした委員会を置く。

委員会は、穴吹ビジネス専門学校が行なった教育活動及び学校運営の状況についての自己評価の結果を踏まえた本校の評価を行い、その結果を校長に報告する。

2. 学校関係者評価委員会

(委員)

高橋 宏之	企業等委員 ツー・プライ(株) 取締役	※私事都合により欠席
阿部 晋士	企業等委員 あべ動物病院 院長	※私事都合により欠席
佐藤 哲郎	企業等委員 福山市医師会 総務部長	
田島 建彦	元高等学校関係委員 元高等学校校長	
天野 博士	卒業生代表委員	
森島 裕策	卒業生代表委員	
曾根 大地	卒業生代表委員	
中川 千鶴	卒業生代表委員	

(学校教職員)

藤井 悦子	穴吹ビジネス専門学校 校長	
信岡 誠三	穴吹ビジネス専門学校 副校長	
山下 保	穴吹ビジネス専門学校 部長	※司会進行
高橋 忍	穴吹ビジネス専門学校 課長	
藤井 智之	穴吹ビジネス専門学校 課長	
林 勇樹	穴吹ビジネス専門学校 課長代理	

3. 学校関係者評価委員会実施日時

開催日時 令和4年3月18日(金) 18:30~19:30

開催場所 福山校東町校舎C棟404教室

4. 自己評価結果の説明・報告（自己評価報告書参照）

当校の「教育理念」、「目的」及び「令和2年度の目標と計画」について説明。各自己評価項目について「評価結果（総括）」、「取組状況とその分析」、「今後の改善方策等」について報告。

各評価項目について、「A」十分である 「B」おおむね十分である 「C」やや不十分である 「D」不十分である の4段階にて評価。

・教育理念、目的

教育理念は穴吹学園で統一したものを設定。目的は穴吹情報ビジネス専門学校、穴吹医療福祉専門学校、穴吹動物専門学校3校の目的を継承している。

・自己評価A以外の項目の説明

・3-11 地域と協力、連携した教育を行っていますか

県内の他の専修学校・各種学校と協力・連携した教育が実施できていないため全体評価をB評価とする。

・3-12 地域の特性を活かした教育を行っていますか

学生が地域の産業、自然、歴史、文化等に触れることのできる授業等を行えていないため全体評価をB評価とする。

・5-11 卒業生への支援体制を整備していますか

資格、検定等不合格者に対する対策は担任レベルでの支援はあるも学校レベルでの支援体制は整っていない、また、卒業生の能力向上のための研修会等は個人レベルで実施している面もあるが学校レベルでの実施はできていないため全体評価をC評価とする。

・5-12 社会人のニーズを踏まえた教育環境を整備していますか

大学卒業生の単位振替がなく、大学と互換性がないため全体評価をB評価とする。

・6-4 防災訓練等を実施していますか

学校独自の防災訓練等の実施はあるが、各縣市町村が実施するような防災訓練への参加はできていないため全体評価をB評価とする。

・10-4 高校生等の職業意識涵養に努めていますか

県専各連合会の若年者職業意識涵養事業への参加ができていないため全体評価をB評価とする。

・総括

B評価、C評価の部分もあったが全体を通してみればA評価が妥当と判断した。

5. 保護者アンケート結果報告

令和3年度卒業生の保護者を対象として実施したアンケート結果について説明。学校の授業内容や支援体制、指導体制等に関する16項目の質問に対して、「A」当てはまる 「B」おおむね当てはまる

「C」あまり当てはまらない 「D」当てはまらない の4段階にて評価。

・問題点

⑤オンライン授業の内容には満足している

C評価、D評価が他の質問に比べて多くみられる。オンライン授業の精度を上げる必要がある。

⑩あいさつやマナーに関する教育が充実している

A評価やB評価が多くみられるが、「どちらでもない」や悪い評価も多くみられる。保護者が家庭内で学生に対して体感している部分で改善の必要性を感じる。

⑩本校に入学させて良かったと思っている

A評価とB評価で9割の評価を得ているが、C評価やD評価、記入なしもみられる。この部分は学校への最終評価となる部分で良い評価を得る必要がある部分。今後原因を追究し、改善を図る必要がある。

6. 修学成果報告

穴吹ビジネス専門学校の各分野における取得検定や受賞について報告。

情報追加として動物看護総合学科の統一認定機構動物看護師は24名の合格。

質問) 曽根委員

ITビジネス学科の日本商工会議所主催日商簿記3級の取得率が7.7%と非常に悪いが原因は何か。

回答) 山下部長

具体的な問題があったわけではないが、指導面のところで上手くマッチングできておらず結果が出せなかった。次の対策に向けて授業時間や対策問題の出し方など指導のやり方を工夫していく。

7. 内定状況報告

令和3年度内定状況の報告。

福山市を中心とした近隣の企業へ就職している学生が多数いる。今後の目標として県内で長く定着できる人材育成を目指しながらも県外でも活躍できる人材も同時に育成していくことが挙げられる。

8. 意見交換

佐藤委員：自己評価をHPで公開するなど、多くの人に広く周知し、就職率向上につなげていくための努力は見えているが、更に周知をするためにも露出を増やすことはできないか。例えば穴吹の特徴などをマスコミに情報提供し、ローカルニュースや新聞等に取り上げてもらうことができれば良いのではないかと。

山下部長：パブリシティとしてマスコミに投げかけ、取り上げてもらえるものについては広告できていると感じる。特に企業連携は取り上げてもらいやすく、CGデザイン学科では福山地区消防組合消防局の女性消防員募集ポスターデザインコンペティションでは大きく取り上げてもらうこともできた。それ以外にも行事ごとに広報部主導でマスコミにアクションを起こしている。

信岡副校長：来年度はパブリシティ報告として資料をまとめて発表するようにする。

天野委員：校名変更による影響はなかったか。

信岡副校長：我々としても不安が大きかったが、現在はSNSなどの普及により情報提供は問題なくできた。動物や医療事務分野においては募集も好調で問題を全く感じさせなかった。

天野委員：今年3月息子が高校を卒業した。近大付属高校だが、保護者の満足度を上げる努力が非常に大きいと感じた。具体的には情報発信の方法である。保護者のメールアドレスが登録されており、学校から直接連絡が来るようになっている。HPでは自分で見に行かない限り見えないため、不明な点が多いが、このシステムにより息子に聞く前にもわかり、クリアになったことですごく気持ちが良かった。穴吹学園ではどのように情報発信をしているか。

信岡副校長：学生に発信はしているが、保護者には学生から伝えるように指導している。

保護者への情報発信方法を今後検討していくこととする。

山下部長：保護者に対しての安心も非常に大事だと感じる。今後検討していく。

森島委員：学生の自主性を高めるような授業の実施はあるのか。

山下部長：今の教育は学生の主体性を伸ばすものを実施する必要がある。今後への課題として認識はしているが、具体的な取り組みはまだできておらず、現在進行形で模索している状態。今までの教育の形とは異なる方法を見つけ出すことが大事だが、学生の学び方の変化もあり難しい問題と考えている。

藤井校長：我々世代は先生から教えられたことをいかにして頭に入れるかが大事だったが、これからの子どもたちは自ら考え、何を吸収するかを選択して学習していくことが大事。穴吹学園としても非認知の学習をしながら教育内容を変化していくための取り組みを徐々にだが行っている。

以上を持ちまして令和3年度穴吹ビジネス専門学校学校関係者評価委員会を終了します。

貴重なご意見を賜り誠にありがとうございました。これからも皆様のご期待に添えますよう、

教職員一同、日々努力してまいりますのでよろしくお願ひ申し上げます。

以上